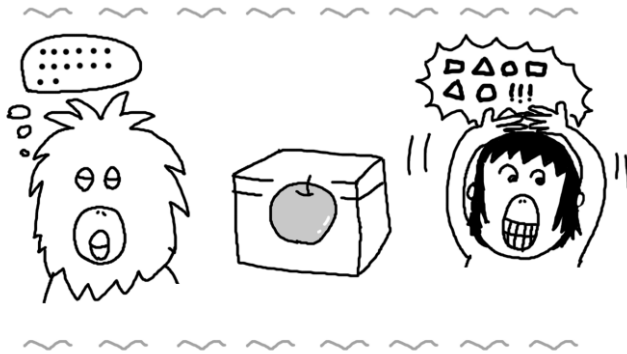


チンパンジーとオランウータン

2023・11・8 校長 重枝一郎

ある学年の学年集会に呼ばれたときにも話した内容ですが・・・。

下の絵を見てください。鍵のかかった箱の中に果物があります。



チンパンジーは鍵を触りながらガチャガチャ動かし、10分後に鍵を開け果物を食べました。

オランウータンは鍵をじっと見つめ、10分後に鍵を開け果物を食べました。

どっちがすごい？

「チンパンジーだと思う人」なぜ？「すごく積極的にがんばったから」「オランウータンだと思う人」

なぜ？「とても落ち着いて思慮深く行動しているから」

ではどっちが早かった？「同じです」

これは同じくらいすごいと言えるのです。そして、これはよいチンパンジー（積極的）と、よいオランウータン（思慮深い）ということなのです。

これをチンパンジーA、オランウータンAとします。観点別評価ABCに置きかえて考えてください。これは、どちらも思考しているから「A」ということになるのです。授業中の君たちに置きかえてみると、チンパンジーAは積極的であり発表もできる。しかもタイミングを考えて発言できる人のことになります。オランウータンAは落ち着いて思慮深く、ノートをきちんと整理している人のことになります。

ところが、授業中、発言のタイミングも無視し、自分勝手な言動をする人は悪いチンパンジーであり、チンパンジーCということになります。また、授業中、人の妨害はしないが、ポーっとしていたり居眠りをしていたりする人は悪いオランウータンであり、オランウータンCということになります。静かにしていても「C」なのです。

あなたはチンパンジータイプですか？ オランウータンタイプですか？「拳手」。

評価の「A」をもらうためにはどっちのタイプでもいいのですが、思考していることが絶対条件になります。みなさんは、当然どちらかの「A」を目指すことになります。ここでアドバイス。自分がチンパンジーCでチンパンジーAになろうと短絡的にしない方がいい。せいぜい「B」で落ち着きます。そこで、逆のオランウータンAを目指すことをおすすめします。チンパンジーCなら授業中落ち着いて考えながらノートを整理します。それを授業後に先生に見てもらおう。そうすることが、実はチンパンジーAになるための秘訣になります。

みなさんの成長には「たし算」が必要なのです。同様に、オランウータンCがオランウータンAになろうとするなら、授業中1回でいいので発言してみます。このように逆を目指すとは意外と成長します。それが“成長はたし算”の原理なのです。同質だと大して「たし算」はされていないことが多く、異質だとしっかり「たし算」されて、目指すAに、実は近づいていくのです。

チンパンジーCはオランウータンAを目指し、オランウータンCはチンパンジーAを目指す。つまり、「異質」をたし算するのです。

私は、授業中が騒がしいクラス、ダラダラしているクラスには、黒板に下手な絵をかきながらこんな話をしていました。

「異質」をたし算して、「行動のレパートリー」を増やしていこう！